

一口メモ (※コースガイド)

毎年9月の岸和田だんじり祭りで名高い、大阪府南西部の城下町が岸和田。

もともとは「岸」と言ったが、南北朝時代に和田高家がこの地を治めてから「岸の和田」「岸和田」と呼ばれるようになったという。そんな岸和田の中心部をめぐり、城下町の香りを楽しむコースです。

復元された岸和田城天守閣、だんじり祭りの熱気をいつまでも味わえる岸和田だんじり会館、紀州街道沿いに町屋が軒を連ねる本町界限・・・ゆっくり散策してください！

① 岸城神社 (きしきじんじや) = 岸和田城下総鎮守、岸和田祭発祥の宮

創建は天正17年(1362)、京都の八坂神社より、スサノオノミコトを隣村に勧請したのが始まりです。岸和田城主小出秀政が城内に遷し、この神社を岸和田城の鎮守神とするようになった。現在は契りのお宮として、縁結びを求める多くの人々からの崇拝を集めている。また、岸和田祭には15台のだんじりが宮入する。

② 岸和田城

岸和田藩5万3000石の本拠地だった街のシンボル。慶長2年(1597)に小出秀政が天守閣を整備、寛永17年(1640)から明治まで岡部氏13代が居城とした。泉州一円をも渡せる昭和再建の天守閣には歴史資料を展示。重森美玲作の八陣の庭は名勝に指定されている。

③ 二の丸広場観光交流センター

岸和田城前の二の丸広場に建つ交流センター。館内には貴重な歴史資料の実物展示のほか、市内にある文化財の紹介パネル等を展示している。無料休憩所としても利用でき、地元の野菜や泉州名物の水なすの浅漬けが購入できる。

④ 岸和田だんじり会館

岸和田だんじり祭りの魅力を余すところなく紹介。

館内には、現存する岸和田最古のだんじりをはじめ、各種のだんじりの実物やだんじりを飾る彫刻などが展示されている。大型マルチビジョンが祭りの熱気や臨場感をたっぷりに再現。

また、お囃子方の気分を味わえる、体験コーナーもあります。

⑤ 天性寺

蛸地蔵と親しまれる地蔵菩薩が本尊。天正年間(1573~92)地蔵の化身の白法師と無数のタコが根来衆の襲撃を撃退し、岸和田城を守ったという。

(その他)

・吉田松陰の逗留地 看板

嘉永6年(1853)2月、長州藩の尊皇論者・思想家である吉田松陰は大阪沿岸の警備状況を視察する為、森田節斎と岸和田を訪れ塩屋平衛門宅(現久住家)に滞在した。松陰は岸和田に滞在中、藩儒でもあった相馬九方ほか藩士と藩校講習館の一室で囲炉裏を囲み、お茶を飲み、煎餅をかじりつつ、夜を徹して時勢や詩文について議論を重ねた。この時、松陰は頻繁に姿を現すようになった外国船に対して海防が手薄であることを繰り返し説いたと言われています。

・本徳寺

本能寺の変で知られる明智光秀の実子、南国梵珪(なんごく・ぼんき)が建立したと伝えられる臨濟宗寺院です。本徳寺では、南国梵珪が描かせた「明智光秀肖像画」と「位牌」を所蔵しており、社会科歴史の教科書でもおなじみの肖像画として、知られています。